

3-02 計測の準備～ワーク高

1 ポートを水平に置き固定する

●リギングの基本は、ボートを水平に置き、固定することから始まります。ボートの前後・左右の水平を、水準器で測定して調整します。どこで水平を測るか、そのボートにあった計測場所を知っておかなければなりません。

●次に、折り畳み式のウマなどでは、ささえの棒などを両舷にあてて、ボートが容易にぐらぐらしないように固定します。これは特に後述の「カバー角を調整」するために必要です。補助者がいれば、ストレートバーを地面に立てて、リガーと一体で持って固定する方法もありますが、特に傾斜計を使う計測は、ぐらぐらさせながら測ったのでは無意味です。

2 調整の順序

●リギングの各要素の調整順序に、絶対的な固定した手順はありませんが、一つの要素の計測・調整が、後の作業でずれるのは避けなければなりません。ここでは、①ワークスルー、ワーク高の調整、②スパン、インボードの調整、③ブレードカバー角の調整、④ストレッチャーの調整の順で説明します。

3 ワーク高の調整

3.1 ワーク高の定義

●ワーク高とは、オールロックの高さのことです。基準は、「シートの座面（最低部、中心線上の後端など）として、ミドルの位置にしたオールロックのシル（＝オールロックの内面のうちの底面）中央部の高さ」を測ります。ワーク高は、オールロックをミドルの位置にして測るのが基本です。

●補足：ワーク高については本当は、「水面」を基準として考えることが重要です。水中のブレードの深さや、シャフトと水面のなす角度を適切にする必要があるからです。そのためは、（一般的な設定順序とは逆に）水面からのワーク高を適切に設定し、それによってハンドルから上体の高さが決まり、それに応じてシートの座面の高さを最適にするという手順があります。

3.2 計測方法

●ワーク高の計測には、Lゲージ（リギングバー、スティック）を使います。ガンネルにゲージを置き、シート座面からゲージ下面までの高さ、ゲージ下面からオールロック（ミドル位置／シル中央）までの高さを測定し、両者の合計がワーク高です。

3.3 調整

●ワーク高の調節方法は、リガーの構造によって異なります。リガーの取り付け位置の変更、（リガーの取り付け部にスペーサの挟み込み）、多孔式か長穴式のL板の差し替え、ピンのワッシャーの差し替えなどで行います。

●これらの詳細は、実際にリガーやオールロック台座などを触って確認していきましょう。